太閤しだれ桜

三宝院の入り口にある太閤しだれ桜は、しだれ桜の種の象徴的な例です。

豊臣秀吉（1537-1598）が16世紀に寺を修復することを決めた理由が、醍醐寺の桜の美しさだったと言われています。

1598年の春、秀吉はさまざまな地域から700種類の桜を集め大規模な花見を開催し、その機会に合わせて三宝院を改装しました。今日でも、毎年4月の第二日曜日に花見会が開かれます。

しだれ桜は、色あざやかな水彩画で知られる奥村土牛（1889-1990）の作品「醍醐」に描かれました。この作品は切手になるほど有名です。枝垂れ桜の近くには、2004年に植えられた世界初のクローン桜の木があります。